

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学演習A	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科・普通 第3学年文型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な思考ができる実力を養成する。
使用教科書・副教材等	教科書 数学B（数研出版） 問題集 新課程 キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（受験編） オリジナルプリント

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	数学ⅠAⅡBの各分野の考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	観察、課題、小テスト等	10%
b. 数学的な見方や考え方	数学ⅠAⅡBの各分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	20%
c. 数学的な技能	数学ⅠAⅡBの各分野において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	10%
d. 知識・理解	数学ⅠAⅡBの各分野における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	10	数と式	・数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
			2次関数	・2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	5	12	図形と方程式	・図形と方程式の考え方について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
			さまざまな関数	・三角関数、指数関数、対数関数とそのグラフについて理解し、それらを用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
6	13	微分法・積分法	・微分法・積分法の考え方について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○	

前期	7	1	ベクトル 第1回考査	・ベクトルの考え方について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
		計36						
	7	6	数列	・数列の考え方について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	8	6	場合の数と確率	・場合の数を求めるときに基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	9	11	整数の性質 総合演習	・整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。 ・数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な思考ができる実力を養成する。	○	○	○	○
	10	1	第2回考査					
		計24						
後期	10	10	演習	・数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な思考ができる実力を養成する。	○	○	○	○
	11	10						
	12	1	第3回考査					
		計21						
	12	4	演習	・数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの問題演習を通じて、教科の内容理解を深めるとともに、発展的な思考ができる実力を養成する。	○	○	○	○
	1	2						
	2							
		計6						

【その他】

①予習について

・必ず解答を見ずに、まず解くこと。(初めて見るような問題に出くわした際も、いかに問題にアプローチしていくかという力が必要である。初めから解答を見ているとそのような力がつかない。内容も定着しない。) 解けた問題と解けなかった問題を明確にし、授業で解けなかった問題を確認するようにするとよい。

②復習について

・一度答案を整理した後、解答を見ずに答案が書けるようにすること。最初はまねてもよいので、きちっとした答案を作ること。答案は小論文と同じと考えてよい。いかに相手を納得させるかが大切となる。この力は、日頃から訓練してはじめてつくもので、ある日突然力がつくものではない。

・問題解決にスピードを要することもある。しっかりとした記述力があれば、秋以降からの演習でスピードも十分ついてくる。

③以下のような学習サイクルをつくること。

